



南房総のハズシ



「個別の教育支援計画」等を 活用した効果的な引継ぎ



今年度も後半に入り、子供たちの就学・進学先の決定に向けて就学相談が進められているところです。就学や進学のような学びの場の移行は、子供や保護者にとって大きな環境の変化であり、期待や不安が大きいことが予想されます。できるだけ不安感を軽減・解消できるよう、体験学習の機会を設けたり、教育課程等の必要な情報を提供したり、きめ細かな教育相談を行ったりするなど、円滑な移行のための支援が必要です。これまでも、学年間や学校間の引継ぎが行われてきているところですが、支援を要する子供の増加、その困難さの多様化から、より一層、一人一人のニーズに応じた支援が継続して行える、切れ目ない支援体制を構築することが求められています。

個別の教育支援計画等を活用した引継ぎ

担任・担当者が代わったり、環境が大きく変わったりしても、継続した支援を行うためには引継ぎが大変重要です。個別の教育支援計画・個別の指導計画は、引継ぎ資料としても役割を果たすものです。本人・保護者の同意の下、これらの計画を学年間、学校間での引継ぎにおいて活用し、これまで受けてきた指導・支援の内容や合理的配慮の提供の状況などを確実に伝えるようにします。

個別の教育支援計画

一貫した支援が行われるよう、就学・進学先等へ計画を引き継ぎます。
保護者から就学・進学先等へ原本を渡し、学校には写しを保存します。

個別の指導計画

年度末に評価・見直しを行い、指導や支援の内容・方法を引き継ぎます。
写しを就学・進学先等へ渡して、作成した学校に原本を保存します。
保護者には個人情報を提供する旨の同意を得ます。



また、書面の引継ぎだけでなく、対面の話し合いによる移行支援会議等の引継ぎを行う会議では、就学・進学先の学校での生活を具体的に考え、学習や生活、友人関係などの支援・配慮、入学式での配慮や教室の確認なども話題にしておくことも必要です。

特に、中学校と高等学校との間で、中学校卒業後も生徒が安心して学校生活を送るために、個別の教育支援計画等を確実に引き継ぎ、生徒の特性や学習状況、生活状況について情報交換を行っていただくようお願いします。特別支援教育コーディネーターは、引継ぎの体制を整えるとともに、生徒指導と連携して情報の整理と共有をしておくことが大切です。

必要な支援が継続して行われるためには、学校間の連携と互いに情報共有することが大切です。
個別の支援計画等の作成と活用、関係機関とのネットワークづくりをお願いします。

学校訪問で見つけた

キラッと光る手立ての工夫

<中学校 自閉症・情緒学級 自立活動 「気持ちのきりかえ『怒りのコントロール』」>

「心理的な安定」「人間関係の形成」「コミュニケーション」を踏まえて、「怒り」の感情に焦点をあてた単元を設定していました。次のような方法や手立てで視覚化し、生徒が「怒り」や「気持ちのコントロール」について考えるきっかけを作っていました。

- ◎全校生徒に「どのように怒りを解消するか」というアンケートをとり、結果を表にして提示し、視覚化を図ることで、客観的に解消方法を考えることができるようにした。
- ◎怒りの表「0（まったくイライラしていない）～10（周りがみえにくいぐらい激しい怒り）」を使い、自分がどんな時に（内容）どのくらい（数値）の怒りを感じるのか、ワークシートにまとめることができるようにした。
- ◎自分の怒りを視覚的に表現できるように、500mLから1.5Lのペットボトルを使い、水を入れたり束ねたりして、その大きさや重さで怒りを表現できるようにした。

視覚的な方法を使うことで、「怒り」を感じる内容や強さは人によって違うことが確認でき、「怒り」のペットボトルを相手にぶつけたり、抱えたままだったりするとどうなるかという発問により、怒りの解消方法を考えるきっかけにしていました。

ペットボトルの大きさや重さで「怒り」を「見える化」



怒りの表	
10	イライラを数値化してみよう
	10 周りが見えにくいぐらい激しい怒り
	7～9 かなりイライラ、強い怒りを感じる
5	4～6 時間がたってもイライラがおさまらない
	1～3 イライラとするけれど、すぐに落ち着く
	0 まったくイライラしていない
0	

怒りの表	
怒りのポイント	どんなことでイライラしたの
10	
9	
8	
7	
6	
5	
4	
3	
2	
1	

<小学校 知的学級 生活単元学習 「ようこそ！ぼくたちのメダカ水族館へ」>

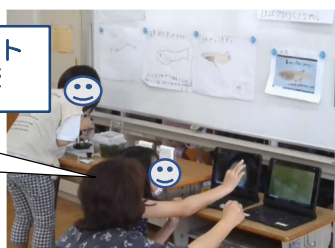
メダカの飼育や観察を中心とした学習でした。単元の最終段階として、観察記録を展示して教室に水族館を開き、友達を招待していました。児童は水族館スタッフとなって友達にメダカの成長について説明したり、解剖顕微鏡を使った観察の仕方を教えたりする活動に取り組んでいました。この単元では、次のようなICTの活用や手立ての工夫がありました。

- ◎解剖顕微鏡を教室内に設置し、いつでも観察ができるようにした。
- ◎チャック付きポリ袋にメダカの卵を入れて、顕微鏡でしっかりととらえられるようにした。
- ◎タブレットでメダカの卵の成長の様子を写真に撮り記録した。
- ◎メダカの卵の成長の記録をスライドショーにして、大型テレビの画面に映し出していた。
- ◎言語表現が苦手な児童には、メダカの生態や成長の様子の説明をするときにモデルとなる定型文を提示していた。
- ◎水族館の入館チケットやスタッフ証を作成し、水族館オープンへの気持ちを盛り上げていた。

児童が水族館スタッフになるという目的意識をしっかりとっていたので、意欲が持続し主体的な取り組みがたくさん見られる単元でした。

顕微鏡で観察した卵をタブレットに記録して、前日の様子と比較

ここが昨日と変わっているみたい。



大きな画面で見ると、卵の様子がよく見えるね。